



あさひ台

学 校 報
第 485号
R3. 7. 21
五城目小学校

学校教育目標

夢高く 心たくましく 学び合う五小の子
～ つなぐ ひらく つくる ～



子どもの「もっとやりたい」を支えるために...

校長 小玉 史男

新校舎になり、初めての夏を迎えました。朝からどこまでも澄んで広がる夏の青空が、汗を光らせ登校する子どもたちを包み込んでいます。それでも、子どもたちは「おはようございます!!」と元気よくあいさつし、「早く学校に入ろっと!!」と笑顔をはじけさせます。連日30度越えの予報ではありますが、校舎内は快適そのものです。冷房とともに、室温を維持したまま自動的に換気が行われているため、校内には常に新たな空気が入り、汚れていくこともありません。

新校舎になって変わったのは、室温等の快適さだけではありません。

まず第1に、授業のスタイルが変わりました。オープン教室とワークホールという環境に合わせ、子どもの主体的な学習を構築しようとする教師の意識が高まりました。固定化されていた教卓という概念を変え、黒板前やワークホールが子どもの活躍する場へと変化してきました。もちろん、個々の技能を磨くために、計算練習や漢字練習、思考を整理するプリントでの学習もありますが、黒板前に教師が立ち続けて、教え続ける講義型の授業は少なくなっています。子どもたちの「発表したい」「表現したい」「もっとやりたい」意欲をさらに引き出していきたいと思います。

第2に、授業スタイルが変わってきたことで、教師の発問の在り方にも変化が見られるようになりました。学習の途中で、子どもたちが「あれっ?!」「どうして?!」と思えるような『第2発問』を工夫するようになったからです。疑問から学びを自分事として受け止めることができれば、自然と解決に向けて自分の思いを発言やノートで表現しようとしています。その過程でディスカッションする力を高めたいと考えました。もちろん、友達を打ち負かすためのディスカッションではありません。疑問や新たな発見を学級全体で共有するために、「疑問」や「意見」、「思い」を出し合い、互いに練り合い、高め合うためのディスカッション力です。子どもたちは、真剣に学習課題と向き合い、お互いに自分の考えを伝えようとしています。これまで以上に生き生きと活動している場面にたくさん出会うことができました。子どもたちのこれまでの当たり前をひっくり返すきっかけとなる『第2発問』は、今後も大切にしていきます。

第3に、学びの中でタブレットが当たり前のように使われるようになりました。GIGAスクール構想により、児童生徒1人1台のタブレットと高速大容量の通信ネットワークが整備され、校内であればどこにいても自由にタブレットを使うことができます。一人一人がIDやパスワードを管理し、今使用しているタブレットは中学3年生まで継続して同じものを使うことができます。教育委員会も家庭での通信ネットワーク(Wi-Fi環境等)に関する調査を実施しました。今後の家庭へのタブレットの持ち帰りと家庭学習での活用、リモートによる学習を視野に入れ、小学校でも子どもたちのICTスキルが学年の発達段階に応じて向上するよう継続して取り組んでいきます。



今年は、5年自然教室(6/3～6/4 白神体験センター)と6年修学旅行(6/24～6/25 秋田県内)を実施することができました。また、グラウンドも整備され、9月には運動会も実施できそうです。

こうして夏休み前(4～7月)は、長期的な課題は残しつつも概ね良好な学校経営を進めることができました。これも、子どもの様子を日々見守り、励まし、応援して下さった保護者の皆様、交通安全ボランティアの皆様、民生委員の皆様、新校舎改築にご尽力いただきました関係各位のおかげと感謝しております。ほんとうにありがとうございました。

子どもたちはこれから夏休みを迎え、各家庭、地域で過ごすこととなります。くれぐれも事故やけが、病気等のないようご留意いただき、充実した夏休みになるようお願いいたします。